

ペトロ後書序言

本書の受取人 第一章一節によると本書はすべての信徒に宛てられたようであるが、第三章一節に、「今、第二の書簡を送る」とあるところを見ると、先の書簡と同様に小アジアの五カ州の信徒に宛てられたものであることは疑えない。

本書をしたためた機会および目的 ペトロが先の書簡を送つてからのち、小アジアに重大な事件が起こつた。すなわち異説者がいて大いなる不品行と邪説とをもつて入り込み信徒を迷わせようと努めた。彼らは元来の異教者で、一時キリスト教に帰依したものの再び異教者のように悪徳に身をもちくずし、これをキリストのもたらし給うた自由の権をもつて弁解し、その上、同じ理由をもつて他の信者をも迷わそうと計り、この世が全知をもつて治められることを信じないで、キリストの再臨、永遠の処罰、キリストが神にたまはしますことすら否んでいた。それでペトロは、この危険から信者をあらかじめ守ろうとして、この第二の書簡を送つたのである。

本書の題目および区分 こういう機会にのぞんで、小アジアの信徒に聖なる生活の必要を記憶させ、偽教師の誤謬に対して予防させようとして、ペトロは簡単な挨拶（一章一、二節）のち、第一に、ますます徳を修める必要のあること、およびその理由を述べて、神の恩と約束とがこれを要求することを示し（一章三―十一節）、また自分の死の近いことを予知するために特にこの忠告をなす必要を感じて、すでに伝えた教えの眞実であることを保証し（一章十二―三十一節）、

第二には、異説者の風俗およびその誤謬を述べ（二章一―二十二節）、第三には、キリストの再臨に関する彼らの誤謬を明らかにし、信者である者が、この誤謬にいかに対したらいいかその必要な準備を教えた（三章一―十八節）。

本書をしたためた年代および場所 このことについては古来から確かな説はない。しかし自分から、死の近いことを示されたと言うペトロの言葉から史を推して、ペトロがロマで殉教したのは紀元六七年であるから、本書は六六年の末か六七年の初めころロマにおいてしたためたものであろう。

ペトロ後書とユダ書との関係 ペトロ後書とユダ書とを比較して、たとえばペトロ後書の二章一―三節をユダ書の四節に、二章四節を六節に、二章六節を七節に、二章十―十二節を八―十節に引き比べると、どちらか一方が他方のものを引証しているものであることは疑いない。この両書のうち、どちらが先であるかについては種々の論があるが、偽教師に関する事がらを説くところを比較して、ユダ書が先であろうとは推測できる。ユダ書でこの点について説くのが簡単なのは、たぶん異説が起った初めであるためであつて、本書ではこれについて、ややつまびらかに説くのは、異説が発展したためであろう。なおユダ書で、はっきりしない言い方が、本書では証明されるところから考えると、ペトロがすでにユダ書を知っていて、これを利用して、これに書き加わえたものであるように思われる。

使徒聖ペトロ、のちの書簡

冒頭

1 **第一章** 挨拶 1 イエズス・キリストのしもべにして使徒たるシモン・ペトロ、わが神にして救い主にましますイエズス・キリストの義によりて、われらと等しき信仰を得たる人々に「書簡を送る」。2 願わくは、神およびわが主イエズス・キリストを熟知し奉ることによりて、恩寵と平安と汝らに加わらん¹ことを。

第一項 ますます徳行を積むべき必要およびそのゆえん

3 信徒はますます徳に進むべし 3 キリストの神にてまします大能^{たいのう}は、その固有の光栄と能力とによりて、われらを召し給いし神を知らしめて、すべて生命と敬虔とに益するところのものをわれらに賜いしものなれば、4 またその光栄と能力とによりて最も大いなる尊き約束を賜いしは、汝らをして、よりてこの世における情欲の腐敗を避けて、神の本性にあずかる者たらしめ給わんためなれば、5 汝らもまた十分に注意して汝らの信仰に徳を加え、徳に学識、6 学識に節制、節制に忍耐、忍耐に敬虔、7 敬虔に兄弟的相愛^{そうあい}、²兄弟的相愛に愛^{あい}〔徳〕を加えよ。8 けだし、

もしこれらのこと汝らにありて増加せば、汝らをしてわが主イエズス・キリストを知り奉るに
 いて働かざるもの、実を結ばざるものたらしめじ。9 これらのことなき人はめいいにして遠く見
 るあたわず、その既往の罪を清められしことを忘れたる者なり。

10 **救霊の事業を全うすべし** 10 されば兄弟たちよ、汝らの召されしこと、選まれしことを善業を
 もっていよいよ固うするに努めよ、さて、これをなすにおいては、いつもつまづくことなかるべ
 し。11 そはわが主にして救い主にましますイエズス・キリストの永遠の国に入るの恵みを豊かに
 加えらるべければなり。

12 **この勧めの第一のゆえん。** ペトロの死近し 12 ゆえに汝らが現にこの真理を知り、かつ固くこ
 の上に立てるにかかわらず、われなお常に汝らをしてこれらのことを記憶せしめんとす。13 思う
 に、わがこの幕屋まくやにおける間は、この記憶をもって汝らを励ますを至当しとうなりとす。14 われはわが主
 イエズス・キリストの示し給いしところに従いて、わがこの幕屋をおるすこと近き7にありと確信
 するがゆえに、15 世を去りしのもも汝らをして、しばしばこれらのことを思い出ださしむるよう
 努めんとす。

16 **第二のゆえん。** 福音の真理を確信せること 16 けだし、われらがわが主イエズス・キリストの
 能力と降臨こうりんとを汝らに告げ知らせしは、巧みなる寓言くわげんに基けるにあらずして、その威光の目撃者
 とせられてなり。17 すなわち彼は神にてまします父より尊嚴そんげんと光榮とを賜わり、偉大なる光榮よ
 り声これがためにくだりて、「これぞわが心を安んぜるわが愛子あいしなる、これに聞け10」と言われし
 なり。18 われら彼とともに聖山せいざんにありし時、この声の天より来りしを親しく聞けり。19 またなお

固くせられし¹¹ 予言者の言葉われらにあり、汝ら、これをもって暗き所を照らす^{ともしひ} 灯とし、夜明けて日の汝らの心のうちに出ざるまで、これを省みるをよしとす。20 まずこのことを知るべし、すなわち聖書の予言はすべて一個人の解釈をもって解せらるるものにあらず、21 是は予言は、昔、人意によりてもたらされずして神の聖人たちが聖霊に感動せられて語りしものなればなり。

- ① ラテン訳では全うせられん。 ② 信者同志の愛。 ③ 神に対する愛。 ④ ラテン訳では、めくら探しをする。
 ⑤ ラテン訳では罪を犯すこと。 ⑥ 存命中の意。 ⑦ ヨハネ 21・18 ⑧ ラテン訳では所在。 ⑨ 神の意。 ⑩ マテオ 17・5、マルコ 9・6、ルカ 9・35 ⑪ ラテン訳では、なお固き。

第二項 偽教師ぎきょうしに対すること

1 **第一章** 偽教師起おこらんとす 1 民のうちには偽予言者ぎよげんしやすらありしが、かくのごとく汝らのうちにもまた偽教師ありて滅びの異端いたんをもたらし、おのれを贖あがない給いし主を否み、速かなる滅びをおのれに招かんとす。2 しかして多くの人は彼らの放蕩ほうたうにならい、真理の道は彼らのためにのしらるべし。3 彼らは貪欲どんよくなるがゆえに空言くうげんをもって汝らにつきて利するところあらんとする者にして、その審判は昔よりありて今にやまず、しかしてその滅びは眠らざるなり。

4 **天罰てんばつの例** 4 けだし神は罪を犯したる天使たちを許し給わずして、これを地獄の暗闇につなぎおき、苦にゆだねんとして審判を待たせ給い、5 また昔の世を許し給わずして、義の宣教者たるノエの一家八人を守り、敬虔ならざる者の世に洪水こうすいを至らしめ給い、6 ソドマ、^{*}ゴモラの都会を化して灰とならしめ、不敬虔に生活すべき人々のみせしめとして、これを全滅に処し給い、7 ま

た義人ロトが非道の人々より侮辱と放蕩なるふるまいとをもって悩まされるを救い出だし給えり。⁵
 8 そは、この義人彼らのうちに住み、彼らが不義の行ないを見聞きして日々にその正しき心を痛
 めいたればなり。

9 偽教師、天罰を受く。主は敬虔なる者を患難より救うこと、また審判の日に罰せらるるよう

10 不義者を保留することを知り給う。10 いわんや肉に従いて汚らわしき情欲のうちに歩み、主権を軽
 11 んじ、大胆横柄にして光栄あるものをのしるを恐れざる人々をや。11 能力と権威とにおいて「彼
 12 らに」まされる天使たちすら光栄あるものに対して侮辱の評を加えざるに、12 彼らはあたかも捕
 えられてほふられんために生まれたる知恵なき獣に等しくして、おのが知らざることののしり
 13 て不義の報いを受け滅びに帰すべし。13 彼らは実にしみなり、汚れなり、一日の愉快を樂しみと
 14 し、肉の歡樂を求め、その会食において汝らとともに放蕩をきわめ、14 その目は姦通に満ち、罪
 15 に飽かず、精神堅固ならざる者をたぶらかし、その心は貪欲に鍛練して呪いの子たり。15 不義の
 16 報酬を好みしボゾルの子バラアムの道をたどり、正しき道を離れて迷えり。16 彼はその罪をとが
 17 められて、もの言わぬるばは人の声にて語り、もって予言者の愚かを戒めたりしが、17 彼らは水
 18 なき井戸、嵐に吹きやらるる雲にして、これに残るは闇の暗さなり。18 けだし傲慢の大言を語り
 19 て迷える者にしばし遠ざかりたる人々を放蕩をもって肉欲にさそい、19 これに約するに自由をも
 20 っすれども、自らは腐敗の奴隷たり、そは人、物に勝たればその奴隷となればなり。

20 棄教の危険およびその憎むべきこと。20 そもそも彼らはわが主にして、かつ救い主にまします
 イエズス・キリストを知り奉りしたために、いったん世間の汚れに遠ざかりてのち再びこれに負け

21 てまつわらるれば、そののちのありさまは前にまさりて悪しくなれり。21 けだし義の道知らざる
 22 は、むしろこれを知りてのち伝えられたる聖戒せいがいを遠ざかるよりは彼らにとりてまさりしなり。22
 誠の諺ことわざに、その吐きたるものに帰れる犬、
 と言ひ、洗ひ清められて泥のうちにまろ転べる牝豚、
 と言えるは彼らに当たれり。

- ① 旧約のユデア選民。 ② ラテン訳では最初の。 ③ 創世記6と8 ④ 創世記19 ⑤ 創世記19 ⑥ 天使の意。
- ⑦ ラテン訳では、のしりつつ異端を入るるを恐れざる。 ⑧ 墮落の天使の意。 ⑨ ラテン訳では、その腐敗にお
- いて滅ぶべし。 ⑩ 呪われた者の意。 ⑪ 民数紀略22と24、31・16

第三項 キリストの降臨こうりんおよび世の終わり

1 **第二章** 予言者および使徒たちの伝え 1 至愛なる者よ、わが今この第二の書簡を送るは、この
 2 二つの書簡をもって汝らの正直なる理性を呼び起こし、2 聖なる予言者たちのあらかじめ語りし
 言葉および汝らの使徒たちの伝えし救い主にてまします主の命令を記憶せしめんためなり。

3 世の終わりに関するびゆうせつ謬説 3 まずこのことを知るべし、末の日には、おのれの欲に従いて歩め
 4 る嘲弄者ちやうろうしやども来りて言わん、4 その降臨の約束いはいずこにかある、先祖たちの眠りし以来、開闢かいびやく
 5 の初めに等しく、すべて変わるることなきに、と。5 彼らは、ことさらに次のことを知らざるがご
 とし。すなわち、もと天あり、地もまた神の御言葉によりて水より出でて水をもって成り立ちた
 7-6 りしに、²6 その時の世は、また神の御言葉と水とにより、水におぼれて滅びたりき。³7 しかるに
 今あるところの天と地とは、同じ御言葉をもって保存せられ火に焼かれんために、敬虔ならざる

者の審判と滅びとの日まで保たるるなり。

8 時は神と人において異なれり 8 至愛なる者よ、汝ら、この一事を知らざるべからず、すな
9 わち主においては一日は一千年のごとく、一千年は一日のごとし。 9 ある人々の思えるがごとく
に主は約束を延ばし給うにあらず、ただ人の滅ぶるを好み給わずして、みな改心するに至らんこ
10 とを好み給うにより、汝らのために忍耐をもって処置し給うなり。 10 されど主の日は盗人のごと
く来るべし、その時、天は大いなるとどろきをもって去り、物質は焼けくずれ、地とその上なる
被造物とは焼け滅びん。

11 如上のことに対する教訓 11 かくのごとく万物のくずるべきを悟りて、汝らはいかにも聖なる
12 行状および敬虔の業において、 12 主の日の来るを待ち、かつこれを早むべきなり。かの日にあた
13 りて天は燃えくずれ、物質は火勢をもって溶かさるべし。 13 されどわれらはその約束に従いて、
14 義の住むところの新しき天と新しき地とを待つなり。 14 このゆえに至愛なる者よ、自らこれらの
15 ことを待ちつつ平和においてしみなくきずなく認められんことを努めよ。 15 またわが主の忍耐を
救いなりと思え。われらが至愛の兄弟パウロが、その賜わりたる知識をもって汝らに書き送り、
16 またすべての書簡においてこれらのことにつきて語りしがごとし。 彼が書簡には往々悟りがた
き所ありて、無学者と心の固からざる者とは他の聖書を曲解するがごとく、これをも曲解して自
ら滅びに至る。

17 結末 17 されば兄弟たちよ、汝らはあらかじめこれを知りて注意せよ、不法人の迷いにさそわ
18 れて、おのが堅固を失うことなかれ。 18 かえってますます恩寵を増し、ますますわが主にして、

かつ救い主にてましますイエズス・キリストを知り奉ることを努めよ。今も永遠の日にも彼に光栄あれかし、アメン。

① ラテン訳では、その約束または降臨。

② 創世記 1・1〜9

③ 創世記 6、7、8

④ ラテン訳では悔悛。